

## 「折尾駅周辺の街づくり」を考えるシンポジウム（蒔田氏発言）

それでは、学園&地域交流ネットワークの蒔田さん。  
自己紹介と観点の説明をよろしくお願い致します。

こんにちは 蒔田と申します。私は、「おりお未来21協議会」の発起時より、運営委員や「折尾まちづくりビジョン」の策定委員として、「折尾駅舎の保存と活用」等に関わってきました。

そして、「折尾駅舎の取壊し」や「西鉄電車赤煉瓦アーチ高架橋の取壊しに、「北九州市の意図的関与」があったのではないかと、大きな疑問を感じています。

北九州市は、「赤煉瓦高架橋や折尾駅舎の取り壊しなどの決定において、「市が決定したのではない。おりお未来21協議会の皆さんが決定された」と、  
回答されます。

専門的な知識のない、おりお未来21協議会、正確な情報を知らせないまま「取り壊し」という見解を作り上げました。

学識経験者や地域の人などが、貴重な歴史遺産であると評し、保存をして欲しいという要望も無視していると、私は思います。

まず、おりお未来21協議会で、折尾まちづくりビジョンの提言がどのように作られたかを説明します。

A3の4枚組の、最後のページをご覧ください。

平成18年度からです。

折尾地域の特性ですが、

- ①近代化産業遺産の堀川運河、②日本最古の立体交差駅の折尾駅、
  - ③日本最大級のねじりマンボがある、旧西鉄電車赤欄が高架橋、
  - ④堀川沿いのレトロな飲食街など
- 歴史性の高い地域として位置づけられています。

そして、折尾地区の問題点ですが、歴史性の高い地域にも関わらず、地域の歴史や文化が活かされていない。

雑然として美しくない街並み。

住む人に、誇りを与えていない。来場者に感動を与えていない。ということで、

街づくりの方向性として、

「住む人に誇りを、来る人に感動を、歴史遺産を活かした街づくり」になりました。

そして、このような街を創るために、

専門部会に、歴史建造物部会が設けられ、

折尾駅舎や西鉄電車高架橋などの、歴史遺産の保全・活用について、

学識経験者の専門の先生を入れて、会議がされました。

そして、その会議のまとめが、「折尾まちづくりビジョン」の提言として、平成20年6月に北九州市に提出されました。

そして、平成 20 年度は、その提言を基に、北九州市とおりお未来 21 協議会が、共同で「折尾駅舎保全・活用方針」を話し合い、21 年 6 月に、折尾駅舎を地域のシンボルとして、複製保存することを明記しました。地域住民が、土地代から建築費、維持管理まで、原則、自主財源で賄うというもので、場所は、南口駅前広場と堀川沿い 2 案が提起されました。

しかし、24 年 2 月、おりお未来 21 協議会は、折尾駅舎の複製保存の場を、北口駅前広場に変更し、「歴史的な外観を有する建築物として、北側に整備される、折尾地区のメインゲートを担う「新駅舎」での再現を望みます」と、北九州市と J R 九州に要望書を提出しました。

よく、折尾駅舎の保存といいますと、何時も北九州市は、折尾駅が不便だといいます。本当に、そうでしょうか？

折尾駅舎を思い浮かべてみてください。

駅舎に入って、切符を買って、改札口に入るまでに、段差がありますでしょうか？

折尾駅舎の待合室は、既に、バリアフリーです。

折尾駅舎は、駅前広場のオブジェ、飾りのようなものであり、駅構内の利便性、エレベーターなどのバリアフリーと関係がありませんが、

駅舎の保存と言うと、いつも、駅構内のバリアフリーと話がすり替えられます。

今度は、1 枚目です。

折尾駅舎ですが、歴史建造物部会で検討されました。

その会議状況です。

- ◆北九州市教育委員会文化財課の職員が、折尾駅舎の価値を説明された時、部会委員から「折尾駅舎は残さないといけない！」との声があがりました。
- ◆次の会議の時、文化財課の職員が説明している時に、上司のような方が来られていて、その方が立ち上がり、文化財課の職員を指さして、まるで恫喝のような雰囲気で説明を制御しました。更に、次の会議の時、文化財課の職員は、自ら発言をすることができない、オブザーバー席に移されていました。
- ◆その後、折尾駅舎を残すとも残さないとも検討されない、異様な雰囲気の会議になり、部会員より、『こんなのは会議ではない。折尾駅舎を 1 %でも残せる可能性があるのなら、文化財指定も含めた方向で会議を進めるべき』と要望があり、その方向で会議が進められました。

その歴史建造物部会の今後のとりまとめを

3 枚目の資料として添付しています。

これで作られた提言ですが、

「今後の取り組むべきこと」が提言になるはずなのですが、

どういうわけか、「折尾まちづくりビジョン<案>では、

『現在の折尾駅舎は、文化の保存を主目的とする「文化財指定」を受けるよりも、地域の人々が活用できる「生きた施設」として保全することを優先する』と明記されていました。

それで、策定委員会の時、

ワークショップのような会議だったのですが、その2回目位の時だったでしょうか、突然、「折尾まちづくりビジョン<案>」の冊子が配布され、折尾駅舎は、『文化財指定を受けるよりも』と明記されていました。それで、歴史建造物部会の意見、まとめと違うということで、策定委員会や運営委員会の場で、『文化財指定を受けるよりも』の削除を求めましたが、「等」という文言、1文字の加筆すら認められませんでした。

そして、策定委員会、運営委員会でも変更が認められず、総会の場で、歴史建造物部会員や、専門部会の（合同報告会）で、歴史建造物部会の専門家（尾道教授）の話聞いた人の証言により『文化財指定を受けるよりも』を、削除することができました。

私は、この歴史建造物部会の提言<案>は、誰が作成したのか、ず〜っと不思議に思っています。歴史建造物部会の専門家の先生は、提言の内容は知らされていませんでした。また、ビジョンの報告会にも呼ばれていません。ビジョンの冊子すらもらっていません。ですから、歴史建造物部会の専門家ではありません。策定委員会、運営委員会、私は関わっておりましたがここでもありません。役員の方にもお聞きしましたが、役員の方でもないそうです。だから、このビジョン、提言を作ったのは誰なのか北九州市なのか、教育委員会なのか、誰なのか、未だ不思議に思っています。

今まで議事録が無いと言っていた北九州市の議事録があると判明し、2012年9月14日に、開示請求により入手。とんでもない真実が明らかに！【別紙参照】

また、更にもう1つ、2枚目です。  
西鉄電車・赤煉瓦アーチ高架橋です。  
（おりお未来21協議会を市民の声とし、取壊されましたが、オリオンプラザリニューアル構想のように3連+3連の6連が残るはずだったのではないのでしょうか?!）  
平成13年、約11年前に「オリオンプラザリニューアル構造」、オリオンプラザが再開発できなくなりましたので日の目を見ていないのですが、この様に高架橋の3連+3連を利用して、こんな素敵なプランができていました。

このプランがあったらからこそ、北九州市が配布しているブルーのパンフレットには、小さいで見づらいのですが、そこにも3連+3連が残っておりますし、北九州市がいつも説明に使っている図ですが、これは、3連+3連が残せるように歩道が広がっています。

この3連高架橋の取り壊しを知った土木学会から、この高架橋はとても価値があるものなので、取り壊しを中止して頂きたいとの要望が出ました。

それで、私は、再検討を、北九州市やおりお未来21協議会に求めましたが、北九州市は、「おりお未来21協議会、市民の声で壊されるのです」と言い、おりお未来21協議会は、「一旦、決定したものは変更できない」と変更されることなく、この赤煉瓦高架橋は取壊されました。  
この計画のように、6連のアーチ高架橋が残っていればと思うと、とても、残念でなりません。

私は、北九州市は「計画ありき」で、「おりお未来 21 協議会を利用」しているように思えてなりません。

このようなことで、折尾の貴重な歴史遺産が取壊されていっていいのでしょうか？！

先人の想いや智恵があって、今の私たちがいます。

大切な歴史を未来に伝えるのは、今を生きる私たちの役目だと思います。

また、それが教育ではないのでしょうか？！

みなさま、どうか、「住む人に誇りを、来る人に感動を、

歴史遺産を活かした街づくり」になるよう、ご協力をお願い致します。

---

質問) 住民の意見を反映させた街づくりにするために、

今後、どのようなことをしたらいいと思いますか？

住民の意見を反映というよりも、

そもそも、おりお未来 21 協議会を住民の声としていていのかというところが一番の問題だと思います。

そもそも、おりお未来 21 協議会の発足事態も、

本当は、工事屋さん入ってはいけないのに、

工事屋さん入ったり、議員さんが入ったりして、運営委員会で牛耳っている。

これがそもそもおかしい。どこかで正して、正常に！

これだけ住民の方やおりお未来 21 協議会、歴史建造物を考えている

色々な方々が思っているのに、それが通らない、

それが歯がゆくて、おりお未来 21 協議会を退会したのですが、

この辺をどうかしてもらいたい気持ちで一杯です。

質問) 今から何ができるのか。

東京都国立市の国立駅も保存運動があって

工事に差し障るという事で、

(取壊される直前に、市の文化財指定をされて)

復元できる状態で保存されていると聞きます。

最後に一言)

やはり、折尾駅と堀川運河とねじりまんぼ（西鉄電車赤煉瓦アーチ高架橋）は

歴史性から考えても、切っても切れないものだと思いますので、

できれば、今の位置に近い位置にしてほしい。

また、堀川運河の歴史を、100 校以上の小学校 4 年生が 30 年も前から学び、堀川に訪れ、堀川沿いを歩きます。

それで、堀川沿いを散策できるような道にしてもらいたいのですが、

今の計画では歩道も無い、6 m の道路予定で、これも変更ができないそうです。

みなさんの意見が大切だと思います。

先程から言っていますが、

おりお未来 21 協議会を、市民の声と絶対にしないことが必要だと思います。